「ヒューマンファクターズ概論」 ～ 人間と機械の調和を目指して ～

岡田有策、慶應義塾大学出版会、225 頁

ISBN4-7664-1173-0（定価 2500 円＋税） 2005 年 5 月 20 日 発行

〔 目 次 〕

第１章 人間と機械との調和
第２章 人間・機械系
第３章 人間のふるまい－情報受信から意思決定に至るまで－
第４章 ユーザー中心の設計
第５章 インタフェース・デザイン・アセスメント
第６章 ヒューマンエラー
第７章 ヒューマンエラー・マネジメント

本書は､学際的なヒューマンファクター（HF）の基本的な考え方、捉え方を平易に解説している初学者向けの教科書である。

第１章から第５章までは､「ＨＦと人間工学の関係」「ＨＦの歴史」「ＨＦの定義・目標」など、ＨＦの基礎的な項目について順序立てて説明し、続いて、安全・効率・快適の観点から、人間と機械（システム）とのインタフェースやユーザビリティの問題、および人間特性の研究成果が紹介されている。

本書の主要部である 6 章のヒューマンエラー（ＨＥ）では、「ＨＥの定義」「ＨＥの再発防止と未然防止の考え方」「ＰＳＦ（行動形成要因：エラー誘発要因）とは何か」「ＨＥを分類する目的」など、ＨＥの本質と基本について、これまでの研究成果や知見が整理されているので読者にとって参考になる。

最後の 7 章は、ＨＥへの取り組みの流れとして、「第一段階 不毛期：ＨＥに対して訓示やポスターなどの注意喚起のみのレベル」「第二段階 萌芽期：エラー発生時に調査し、防止対策を立案するレベル」「第三段階 停滞期:エラー発生自体の総数は減少しているが重大事故を繰り返しているレベル」「第四段階 発展期：ＨＥの要因を多角的にとらえ、再発防止と未然防止へ向かっているレベル」「第五段階 充実期：ＨＥの要因やリスクを組織としてとらえ、他組織、他分野との情報交換や連携を図っているレベル」があるとの指摘は、自分たちのＨＥ防止活動がどこのレベルにあるのかを知ることができる興味深い内容である。

最近の重大事故や重大災害には、その背後には、必ずヒューマンファクター問題の存在が指摘されていることから、本書は時機を得た書籍であり、ヒューマンファクターから生じるリスクを特定し、アセスメントを行い、対策するために何ができるのかをという問いに対して、示唆が得られる一冊である。